

第3回繊維系三学会合併に関する協議会 議事録

【日時】 2024年5月19日（日）13:00～16:00

【会場】 ドーンセンター4階 中会議3 & オンライン: Teams システム利用

【出席】 （敬称略）

繊維学会

会長：大田康雄、副会長：辻井敬亘、奥林里子、村瀬浩貴、事務局長：山本恵美

日本繊維機械学会

会長：井上真理、副会長：倉敷哲生、田上秀一、西脇剛史、事務局長：高平恭護

日本繊維製品消費科学会

会長：大矢 勝、副会長：榎本雅穂、森下あおい、（欠席：小田直規）

事務局長：西 良造、事務局：山田 勲（記）

進行：大矢 勝（日本繊維製品消費科学会）

【内容】

はじめに

- ・三学会合併に関する協議会では8つのWGチームが決定し検討会が開始された。
- ・6月、8月中間答申、10月答申案提出とする。
- ・今日は事務局検討WGの検討事項から始める。その後各WGからご報告をいただきたい。

【意見】

- ・中間答申や最終答申に合わせるスケジュールで、理事会での承認、公聴会の開催、理事会決議・総会決議をどういうスケジュールで進めるかを作成し報告してほしいと会員からの要望がある。

【結果】

- ・第1回WG中間答申（進捗状況・概要などまとめる。ダイジェスト版/A4半ページ程度）
期日：6月24日迄に、共有フォルダーに入れる（まずは、内部用にまとめる）。
- ・8月はWGの中間答申のまとめとし、それを公開用のサマリーにする。

1. 事務局WGでの検討（3/13）

1) 役員体制について 業務執行理事・運営組織の在り方

- ・会長・副会長会（6名）
- ・副会長の役割分担
- ・業務執行理事（6名の会長・副会長会で担えるか）別途、運営委員会を組織するか。

2) 理事会 アカデミア・企業＝2:1か

繊維学会 17:12:1（化繊協会）

繊維機械学会 12:11:2（公設試）

消費科学会 12:11:2（公設試等）

3) 諮問委員、顧問 現状なし→入れるとしても定款には入れない？

→諮問委員の名称はともかく、現三学会で80名近い理事が半分以上になること、特に企業理事が減ることによって学会への支援～協力体制が弱くなることが懸念される。
法人会員を含めたシンパサイザーの支援が今後必要である。
また、三学会合併後、さまざまな検討・判断が必要になることが想定される。
広く意見を求める、提案をして貰う組織が必要なのではないか。

理事会がその任を担っているので別途組織は必要がないとの考えもある。また、広くご意見を受け賜わる機関としては有っても良いが理事会の「奥の院」のような二重構造となるような事は不可という意見もあり、引き続き役割を含めて検討することになった。

4) 表彰制度

2026年度は、旧三学会の表彰制度を適用

2027年度から統一させる必要がある

表彰制度規程等の変更が必要である

- ・繊維学会：功績賞、学会賞、奨励賞、技術賞、論文賞、紙パルプ論文賞
- ・機械学会：学術賞、論文賞、技術賞、学術研究奨励賞
- ・繊維消費学会：論文賞、奨励賞、年度論文賞、功績賞、消費科学フロンティア賞、解説賞

5) 支部について

支部 全員がいずれかの支部に所属する

- ・現在の支部区割り

繊維学会：①東北・北海道 ②関東 ③東海 ④北陸 ⑤関西 ⑥西部

機械学会：①関東 ②東海 ③北陸 ④信越 ⑤中国

消費学会：①関東 ②東海 ③北陸 ④中国・四国

現場の意見を調整して、課題を抽出して、抵触しているところにヒヤリングして協議会に提案する必要がある

夏季セミナーは、関東支部・関西支部も含めて支部で回して貰う

支部と本部で実行委員会を組織する（年次大会WG、催事・研究WGに確認）

6) 事務所運営

事務所の役割分担→引き続き検討する

- ① 会員、会費の管理、催事運営・経費管理
- ② 年次大会／夏季セミナー
- ③ 秋季研究発表会（全国大会の位置付け）
- ④ 講演／講座／シンポジウム（内容は催事WGで検討）
- ⑤ 学会誌発行

7) 委員会組織 - 各WGで検討されている

運営／計数管理

- ①企画委員会
- ②学会誌編集委員会
- ③論文編集委員会
- ④国際委員会
- ④各研究会

8) その他の課題

①学会名

日本繊維学会が前回案では採択された。

→英文名は、**Japan** が付いていること。

合併時期を知るためにも、学会名は既存の学会名から替えた方が良い。また、新学会名は象徴として非常に重要であり、早い時期に新学会のあるべき姿・合併の意義とともに各会員に提示する事が重要である。

②新定款

前回の確認、見直し→意見があれば提案して貰い“三学会合併に関する協議会”に掛ける
三学会会長がその役割を担う。

③ 会費

正会員 9,600 円(→10,000 円) 学生会員 2,000 円(冊子は配布しない)

維持会員 ; 1 口 24 万円 賛助会員 : 1 口 8 万円

→多くの法人会員は合併に賛成しているのでこの機会を捉えて、三学会、二学会会員企業に具体的に交渉して数字を確定させた方が良い(確実な収入を予算化したいため)。

	維持会員	賛助会員
現在の会費		
繊維学会	210,000 円	70,000 円
繊維機械	280,000 円	95,000 円
消費	240,000 円	60,000 円
新学会	240,000 円	80,000 円

※法人会費と広告費のパッケージ案が提案された(前回は強く要望された)

繊維学会から広告費の徴収を毎回(年度毎、催事毎)行うのは労力が過重に掛るのでパッケージ案が提案されたが実現にいたっていない(企業の業績で削られやすい)。支払い窓口が違うので難しい面はあるが、企業会員に協力して貰えないか。

高齢会員

50 年会員無料(減免については申請制)

65 歳以上 4,000 円 催事会費は、該当額半額

高齢者が増え続けるが問題ないか

④ 辻本郷税理士法人との関わりについて

繊維 : 44 万円 繊維機械 : 63.6 万円 消費 : 36 万円

- ・合併後 辻本郷に引き続き依頼するか検討
- ・依頼内容の検証と相見積もり取るのか

合併に関するコンサル料 450 万円→個別見積を要求した結果-50 万円下がった

辻・本郷からの回答 ・経理財務 250 万円 ・登記は別途 150 万円

他社から見積もりを取って検討するのだろうか。

⑤ 単一学会では取り込めていない領域・分野

- ・大手アパレル・流通領域のクライアントに参加を求める
- ・社会への啓蒙・相談・情報発信
- ・三学会挙げて産・官・学へアピール宣言が必要である

⑥ わくわく感の醸成

1) アクションプランの提案、将来構想、人材育成

2) パブリシティに努める

- ・会員に向けての情報提供
- ・会員からの提案を受ける
- ・三学会共通があてって良いが、各学会で独自の“わくわく感”を発信することが大切である。

【意見】

会費について

- ・会費の件は、事務局検討 WG で検討されるのか、財務検討 WG との棲み分けはどうしたらいいのか。
- ・維持会員の法人会員に交渉して、打診してみるという意見はある。

- ・会費がどのようになるか、広告パッケージ化するのか、進め方は収支を考えるうえで重要である。
- ・財務検討 WG は会費と固定費をどうするかがポイントになる。

事務局について

- ・新学会のあるべき姿、会員へ提供するサービスを考える上で、東西 2 事務所の体制で検討を進めている。理事会、実行委員会の体制を維持するために、事務局は必要であるが、一方で、事務局の負担が大きくなる。どうスリム化するのか。議論をしっかりとしたい。
- ・事務局体制・運営は、2 事務局でどう運営していくのか。工数の多い業務（分担）、委託する業務（スリム化・費用の課題）など、事務局長同士の打ち合わせで、考えてはどうか。催事や会議の実施のしやすさなど、大阪事務所をどうするかという案も考えたい。
- ・将来、事務所の体制はどうか。合併して 1 事務所にするという案も検討する必要がある。
- ・事務局運営をどうするかが重要。事務局運営をどうするかは、最終的にこの会議で決めることになる。
- ・労務管理や就業規則などは古いものしかなく、現在の状況に合わせたものに変更していく必要がある。事務所の賃貸料や事務局の給与等も支出が大きいので、財務検討 WG で検討し、会員が納得できる説明もできるようにしたい。
- ・催事・研究(委員)会検討 WG、学会誌検討 WG など、3 学会が一緒になるメリットをどうするかで、事務局の運営のあり方も変わってくる。それも含めて、事務局検討 WG で検討する。

【結果】

- ・会費の件は、事務局検討 WG は提案してもよいが、財務検討 WG が中心となり決定する。
- ・事務局については、東京と大阪の 2 事務所の体制で進めることとした。詳細な役割分担は、事務局長同士の打ち合わせをしてもらい、事務局検討 WG で議論することになる。
- ・大阪事務所の賃貸料は財務上大きいので、事務局検討 WG で議論し、将来の方針を決めていきたい。
- ・財務検討 WG で会費や固定費も考えながら、1 事務所、2 事務所などいくつかの体制を一覧で検討
- ・中間答申を受けて、事務局運営をどうするか、体制をどうするかは、最終的に本協議会で議論する。

[各 WG からの報告内容]

1. 将来構想 WG からの報告（森下先生より）

【報告事項】（4/22 第 1 回）

- ・前回のアクションプラン、ビジョン、ミッションの見直しするかを議論した。2030 年を目指してのところは、時間的な経過も考え、もう少し先までを将来構想として考えたい。
- ・学会全体にとって要素技術をどう生かすのか、そのあり方について考える必要がある。
- ・どういう時期を見据えるかの議論では、短期的／中期的／長期的の 3 つの視点で整理する。
- ・具体化する上では、組織を考えておく必要がある。短期的／中期的／長期的の予算も検討したい。
- ・3 学会合併して川上・川中・川下が揃うのでそのメリットをわかりやすく伝える工夫が必要である。
- ・次回は、5 月 28 日に将来構想 WG を実施する。

【意見】

- ・ビジョン、ミッションがあって、3 学会合併の意義がある。3 学会合併のメリット（学術、研究、技術、生活に役立つ等）をわかりやすくまとめることが重要である。

2. 学会誌検討 WG からの報告（村瀬先生より）

【報告事項】（4/19 第 1 回）

- ・前回の準備がかなり細部にわたっていたので、再度確認した。
- ・学会誌出版の財政の面より、合併のタイミングで学会誌は完全電子化したらどうかとの意見があった。
- ・学会誌の広告収入と購読収入があり、電子化すると失われてしまう。広告・購読収入が大きいので、い

きなり電子化は不可能である。広告はホームページのバナー広告などの別の方法の検討が必要

- ・2026年度は冊子での発行を考え、電子化はできているので、同時に進める方向で考えている。

3. 論文誌検討 WG からの報告（大矢先生より）

- ・前回の答申では、英文誌「JFST」および和文誌「日本繊維学会論文集」の2誌を「電子ジャーナル」として刊行することとした。統合された学会で発行される2つの論文誌は、これまでの3学会のジャーナルに掲載されていたすべてのジャンルの論文が投稿できる。また、和文誌をJTE、繊維消誌の後継誌に指定し、広く投稿の機会を確保することとされた。

【報告事項】（4/14 第1回）

●繊維学会

JFSTのIF消失に関する懸念については、ほぼ問題がないことが確認された。前回WGで決まった合併後の論文誌の方向性には修正意見がないとの報告がなされた。

●日本繊維製品消費科学会

前回WGで決まった合併後の論文誌の方向性には修正意見がないとの報告がなされた。

●日本繊維機械学会

JTEの編集委員会からは、JFST、JTE、繊維製品消費科学会の論文誌の3誌の体制で進めることが提案された。全ての論文をオンラインで刊行するなら、1誌でも3誌でも経費は変わらないと説明された。

⇒論文誌検討WGから3学会の会長・副会長に対して、日本繊維機械学会から論文誌の3誌の体制で進めることが提案されたことを報告し、今後の方針を考えることとなった。

【意見】

●日本繊維機械学会の意見

JFST、JTE、繊維製品消費科学会の論文誌の3誌の体制で進めることで川上・川中・川下の一体化したメリットを示せるのではないかと。各学会の企業の報文なども出しやすい。査読システムを同じにすれば、費用的にもメリットがある。長年発刊した伝統ある論文誌JTEを止めるのは会員へのメリットも減る。前回決まった内容があるからではなく、こちらの提案も聞いてもらいたい。是非、議論してほしい。

●3学会合併を鑑みた意見

- ・JFSTのIFを高めたいので、3学会が合併するメリットがある。しかし、JTEを存続するなら、そのメリットがなくなってしまう懸念がある。
- ・新たな学会になるのに、分かれている入り口を作るのは違和感がある。どの学会も歴史も伝統もある。新しい繊維の未来を作るビジョンがある。学会の将来像と合わせて論文誌の内容を議論したい。
- ・JFSTのIFを高めるとは、健全なコミュニケーションが取れていることを示す指標である。川上・川中・川下で一体化した方がIFはより高まる傾向にある。学会の未来を考え、提案を考えてほしい。
- ・JTEの名前を残す提案は、真に会員ファーストと捉えられない。新学会としてのメリットとデメリットをしっかりと出し合って、議論してもらいたい。

【結果】

- ・日本繊維機械学会の提案を推進する方から、論文誌3誌を継続する新学会としてのメリット、および、会員にとってその方がよいという提案（ビジョン、意見）を本協議会に提出いただきたい。その上で、協議したい。

4. 年次大会検討WGからの報告（田上先生より）

【報告事項】（4/23 第1回、5/14 第2回）

- ・前回の答申で出された内容の説明がなされた。

- ・年次大会の実施時期を大学の休み（3月春休み、9月夏休み）に実施できないか。平日は授業があり、家政系の先生方は難しいとのこと。
- ・開催場所は、数年に1回は関西での開催にできないかとの意見があった。
- ・会場は足りるのか。集約しても19セッションもあり、セッション数が多すぎる。
（東京会場候補：タワーホール船堀が2027年は工事のために使用できなくなる。）
- ・実行委員会は、セッションの運営をどうしているのか。繊維学会は各セッションに実行委員が付き、発表勧誘からプログラム編成、座長選定までを担っている。これを踏襲してはどうか。
- ・年次大会と秋の研究発表会の位置づけを明確にした方が良いのではないか。

【意見】

- ・年次大会の広告の収入をどのように考えるのか？（パッケージ案はどうするか）。
- ⇒まず当面は、今まで通り、大会ごとで広告を集めることにして予算化する。展示も集める。予算規模は検討中であるが、8月の答申には間に合わせたい。

5. 催事・研究会検討WGからの報告（倉敷先生より）

【報告事項】（5/7 第1回）

- ・前回の答申内容の説明がなされた。
- ・研究会と企画委員会の名称で統一することで合意した。研究委員会の名称は廃止する。
- ・企画委員会は、講習を担当する分科会と講演を担当する分科会を2つにおいて、進めていく。講習分科会はこれまでの内容を集めて実施する方針。講演分科会は、最先端のテーマを取り上げて、4つの部会（AI、スポーツ、メディカル、見学会等）を設けて実施する方針。夏季セミナーの運営も実施。
- ・25の研究会をそのまま持っていくことはできない。研究会の構成を検討したい。

6. 国際化WGからの報告（奥林先生より）

【報告事項】（5/14 第1回）

- ・前回答申内容の説明がなされた。
- ・会員の思いやミッションの説明がなされた。
- ・答申で出た内容はできたら会員へ情報提供いただきたい。
- ・これまでで残したいことや3学会だからできる新しいことを考え、活性化を目指す。
- ・段階を見ながら、将来構想WGと共催も考えていく。
- ・議事録は各WG内で作成することとする。

7. 財務検討WGからの報告（西脇先生より）

【報告事項】（4/22 第1回）

- ・前回の財務シミュレーションを紹介した。
- ・会費や広告の検討をする。
- ・催事、年次大会などの行事は規模に応じてクラス分けしている。
- ・人件費の事務局の状況をアップデートしている。
- ・事務局のあり方を4つのケースに分けて、次回に報告する。

【意見】

- ・学会誌の印刷会社をどこまで利用するのかで変わってしまう。どこまで、委託すればいいのかを学会誌WGで検討いただければと思う。財務とも合わせて、考えさせてほしい。
- ・年次大会の財務について、広告のパッケージ化を含めた予算なのか、これまでのやり方と同じでよいのか。
- ・年次大会は参加費と広告や企業展示などのやり方の希望を教えてほしい。それに合わせて、財務上、赤字にならない方向を考えたい。

8. ホームページ WG の立ち上げ

【依頼】

各学会から 1 名選出してもらいたい。

9. その他

本会議の正式名称を「繊維系三学会合併に関する協議会」とする。

合併を進めるにあたってのアクションプランとスケジュールを一覧で示す必要がある。来年早々には各学会の理事会で承認を得る必要がある。日本繊維機械学会が担当し、修正した内容を次回提出するようにする。

・次回の会議について

第 4 回繊維系三学会合併に関する協議会 / 今後日程調整予定（6 月末から 7 月上旬）